

いのち

THEIR LIVES WERE TOO SHORT.

# 生命のメッセージ展

つながれ つながれ いのち

in 横浜

### 特別企画

アンネ・フランクと希望のバラ展  
安田菜津紀写真展《生まれてよかったと思える社会を》  
映像シアター《生きる》監修 小林はくどう  
《黒い雨》制作 Arte MORIYA

あなたの大切な人は誰ですか？



いのち  
生命



愛



平和



あなたの守りたいものは何ですか？



### いのち「生命のメッセージ展」とは

犯罪・事故・いじめ・医療過誤・一気飲ませなどによって、  
理不尽に生命を奪われた犠牲者が主役のアート展です。

犠牲者ひとりひとりの等身大の人型パネルは**メッセンジャー**  
と呼ばれ、その胸元には本人の写真や家族の言葉を貼り、足元には  
「生きた証」である靴を置いて、いのちの大切さを伝えています。

「生命・愛・平和への思いを作品に」という呼びかけに寄せられた作品の展示

## 神奈川県民ホールギャラリー・全室

2018年6月12日(火)～17日(日) 10:00～18:00  
(最終日15:00)

神奈川県横浜市中区山下町3-1 TEL 045-662-5901(代表)

主催：特定非営利活動法人いのちのミュージアム

〒191-0033 東京都日野市百草999 百草台コミュニティーセンター3階

後援：文部科学省・国土交通省・法務省・警察庁・神奈川県教育委員会・横浜市・横浜市教育委員会  
一般社団法人日本損害保険協会・一般社団法人神奈川県損害保険代理業協会

協力：アート引越センター



# 見て 聴いて 感じて 考えて



いのち  
『生命・愛・平和』への想いを赤い毛糸に託してつなげてください。

横井孝子 / 横井博彦 / 有賀翼 / 飯島友樹 / 石杜吉範 / 井上周子 / 井上奏子 / 岩崎真紀 / 江角真理子 / 大崎涼香 / 大谷知子 / 大野友巳 / 大庭三弥子  
 岡崎哲 / 児島健仁 / 酒井裕幸 / 芝山翔太 / 鈴木零 / 高松聡至  
 早川理子 / 本田崇 / 前田千尋 / 丸谷康政 / 三宅宗弘  
 米村泰彦 / 和氣由佳 / 坂口悟 / 安藤裕史  
 須藤正和 / 高橋真理子 / 青木悠 / 水野寛子  
 垣内悠佑 / 角田廉 / 大塚広登 / 菊地良和  
 馬場永吉 / 佐藤翔樹 / 片岡樹里  
 岩崎元紀 / 徳永詠一 / 安田宏司  
 下平真未 / 芝波田良太  
 阿部浩次 / 阪口若葉  
 渡邊祥子 / 遠藤杏子  
 福原里美 / 竹田秀人  
 田中幹弘 / 小佐々守  
 北山結子 / 辻出紀子  
 眞田雄輝 / 清水岬太  
 川満正則 / 松原和明  
 南部攻一 / 眞砂晃  
 明地龍 / 高石拓那  
 尾駁一機 / 新井未来  
 飛弾綾美 / 村上和希  
 浜崎奈那 / 須藤哲也  
 小沢雅江 / 小沢義政  
 渡邊敬純 / 丹羽信嘉  
 大草侑真 / 小島達也  
 工藤剣太 / 生長達也  
 佐々木結貴 / 有井千織  
 小谷真緒 / 中谷歩 / 中村友美  
 村田英貴 / 藤村志瑛理 / 松本康志  
 宇都宮裕 / 山本将寛 / 五十嵐みよ子  
 鈴木登喜夫 / 竹田ひとみ / 米村智紗都

田中泰基 / 田中美央 / 玉造義郎 / 都丸賑啓 / 秦野真弓  
 森孝男 / 森山舞 / 山田将大 / 山根佳奈 / 八向亮  
 土場俊彦 / 田代尚己 / 徳永美香 / 楠野敦司  
 林順一 / 石谷直之 / 三浦芳代子  
 藤原民三 / 鴻巣淳 / 宮田稔之  
 音喜多康伸 / 村井純一  
 山仲雄真 / 宮地貴弘 / 山田大助  
 松岡正浩 / 永谷英恵  
 由利厚子 / 由利朋翠  
 仲沢採希 / 祝部悟  
 片山浩太郎 / 谷本大治  
 添谷歩美 / 鈴木理恵  
 田中公子 / 中土澧太  
 笹森郁也 / 宮本憲利  
 川津裕太郎 / 柴田守  
 佐藤智陸 / 廣瀬英一  
 白倉美紗 / 佐藤博勇  
 齋藤卓弥 / 浜田拓郎  
 西川和幸 / 大室圭吾  
 ラマン・アンヌマリ  
 岡崎愛 / 水上貴俊  
 長谷元喜 / 勝原輝樹  
 志賀達也 / 廣瀬丘行  
 芝山寛典 / 三浦伊織  
 中江幸姫・愛鈴 / 佐々木一尋  
 眞島以明 / 東令子 / 横山奈緒  
 伊東シヅ子 / 足立紫苑 / 宮元洋  
 頼近佳和 / 安井誉人 / 秋山実久

いのち  
メッセンジャー160命  
つながれ つながれ

2001年より来場者の手で、次々と赤い毛糸を結んでできた小さかった毛糸玉が、抱えきれないほどの大きさになりました。まだまだ大きくなるでしょう。人と人のつながりの「証し」です。

## ■展示協力

NPO法人ホロコースト教育センター kokoro:(株)スタジオアフターモード:  
 NPO法人市民がつくるTVF/市民ビデオ研究会:Arte MORIYA:アシカ120:  
 相模原市立相模台中学校:神奈川県朝鮮中高級学校美術部:NPO法人子ども美術  
 研究所:ギャラリーK:川村造形美術研究所:ジェイ・ディ共済協同組合:  
 命と安全を守る歩車分離信号普及全国連絡会:日本フォーラム(ワールドディ・  
 ジャパン):安田菜津紀:小林はくどう/慶子:守屋ひろみ/行彬:内海信彦:  
 滝清子:葉緑素為吉:五島三子男:藤井建男:鈴木貴久:安西敬子:当別当  
 よして:高田花周:鈴木賢士:あさい敏恵:吉川由美子(順不同)  
 ※その他、ここに記載できない方々が多数いらっしゃいます。

## 問い合わせ先

### 特定非営利活動法人 いのちのミュージアム

〒191-0033 東京都日野市百草999 百草台コミュニティーセンター3階

Tel:042-594-9810 Fax:042-506-9816

E-mail:office@inochi-museum.or.jp

HP:http://www.inochi-museum.or.jp

## 【神奈川県民ホールギャラリー交通のご案内】

- みなとみらい線「日本大通り駅」3番出口から徒歩約6分
- JRまたは市営地下鉄「関内駅」から徒歩約15分



神奈川県横浜市中央区山下町 3-1  
TEL 045-662-5901 (代表)

# いのち 生命のメッセージ展in横浜

会場：神奈川県民ホールギャラリー全室  
2018年6月12日(火)～17日(日)10:00～18:00

アクセス みなとみらい線日本大通り駅3番出口より徒歩約8分  
※JR根岸線・市営地下鉄関内駅からは徒歩約15分かかります。



主催：NPO法人いのちのミュージアム  
後援：文部科学省・国土交通省・法務省・警察庁・神奈川県教育委員会・横浜市・横浜市教育委員会  
一般社団法人日本損害保険協会・一般社団法人神奈川県損害保険代理業協会  
協力：アート引越センター

## 特別企画 会場2室

# 映像シアター 《生きる》 会期中エンドレスで上映します。

《生きる》をキーワードにした市民映像作品の上映を行います。  
東京ビデオフェスティバルで入賞した作品を中心に、さまざまな角度から  
生命のありかたを考えます。

■座談会 6月16日(土)13時から 上映会場にて  
作品上映をしながら、作者たち映像作家を囲んで《生きる》をみつめます。  
司会 小林はくどう

企画：市民ビデオ研究会・NPO法人市民がつくるTVF  
監修：小林はくどう (連絡先 hakudok@yahoo.co.jp)

### ①ラグ車 前へ ～車いすで挑む自立支援の道～

17分22秒 蒲宏樹 (東京都)

リオ・パラリンピックで銅メダルを取ったウィルチェアラグビーは四肢に麻痺がある障害者が車椅子で競技するスポーツだ。“横浜義塾”に所属する荒木太郎さんは重度ながら、楽しんでプレーする。車椅子障害者の社会参加をめざす挑戦に迫る。



### ②城南子ども放送局 ～城南特別支援学校～

15分30秒 渡邊恭子(中央大学 FLP松野良一ゼミ) (東京都)

城南子ども放送局の車椅子リポーターたちによる元気と明るさに満ちた学校紹介。子どもリポーターは鋭い質問や自分の本音をすかさず述べるやり取りが絶妙。さわやかな知恵の深さを感じる。



### ③君の生涯 よく頑張ってきたね

19分50秒 合原一夫 (大阪府)

亡妻に捧げる夫のビデオレターだ。二人の自分史。妻は若い頃から心臓が悪く、生涯6度の入院退院を繰り返すが、彼女の信条は何でも積極的だった。気の済むまでやり遂げる人生を全うした妻に夫は感服し自分も頑張ると独白する。



### ④キャベツとわたし

6分03秒 河野壽美子 (愛媛県)

ドラマのような主婦のビデオ日記。料理に使ったキャベツの残りの芯をコップに漬けといたら葉が出てきた。彼女は転倒し、右手首を骨折してしまふ。不自由なリハビリ治療に耐える彼女と使命を終えた誓のキャベツの生命力が興味深い。



### ⑤青根っこ

10分00秒 白井由貴子 (神奈川県)

相模原市は70万人の人口、政令指定都市でありながら、山村もある。緑に囲まれた青根小学校は1年生が入学し、全校生徒7名の児童は登校時には熊よけの鈴を付けている。地域の人たちの楽しみは、学校行事に参加すること。



### ⑥チョコレートのヒミツ

7分29秒 江戸川区立 鹿骨中学校放送部 (東京都)

味ではなく児童労働を問題にした中学生版ジャーナリズム。チョコレートの原料はカカオ豆だが、労働を担うのは実は幼い子どもで、西アフリカでは今でも強制労働や人身売買がある。取材が精力的に展開する。



## ⑦語り継ごう阿東の史話

17分51秒 大野進二 (山口県)

地元に残る戦争秘話。山口市阿東地区の草刈場だった台山に、日本の戦闘機が不時着した。若い飛行兵と村人の交流のエピソードを今も次世代へ語り継ぐ古老を取材。丁寧な絵が魅力。



## ⑧神様からの贈り物

9分36秒 長妻洋 (茨城県)

結婚して45年、夫婦で栽培する畑日記。ゴミ捨て場で西瓜の苗を見つけた。堆肥や鶏糞をやり、暑さの中で西瓜は次第に育つ。収穫し、妻は元気になる。夫婦の微妙な空気感が興味深い。



## ⑨オレの歌

4分32秒 MC NAM (兵庫県)

ラップミュージック映像。「自分とは何者?」と20歳の若者が唄う。自分は神戸生まれ、日本名を持つ国籍不明のベトナムラッパー。ベトナム語が不得意で、母国では日本人と言われる心の内を軽快に唄う。



## ⑩ハートリンク物語

14分55秒 金子喜代子 (東京都)

小児ガン死の子供たちは年間800人。助かってもやがて再発や2次ガンの不安があるが、費用もかさむ。保険会社の保険に入れないのが現実だ。新潟に住む一人の母親が娘のガン治療を契機に、出資金で支えあう共済制度「ハートリンク」を立ち上げた。



## ⑪母の思い ~あさりと亀さん~

9分11秒 永井美千代 (千葉県)

母は90歳だが、本人の希望で一人暮らし。早朝から家事をこなす。野菜をつくり、健康体操も日課の一つだ。下の弟が白血病になるが、母の願いが効いたのか、無事回復。あさりと亀さんのお守りを作り出し、皆にあげるのが生き甲斐となった。



## ⑫学ぼう!命のつながり -里山のカエルたち-

12分00秒 兵庫県立「ゆめさきの森公園」学ぼうグループ (兵庫県)

新緑の季節になると、公園で里山の生き物たちが活発に活動を始める。繁殖するカエルたちの天敵は蛇。自然観察会では生き物の死を映像で子どもたちに見せ、食物連鎖と生きる尊さを伝える活動を行っている。



## ⑬ろう者が戦争の時代を語る

20分00秒 千葉視聴覚障害者センター(千葉県)

ろう者が当時の戦争体験を手話で生き生きと語る。召集令状が届いて、始まる兄弟喧嘩、戦闘機が頭上を通る時、表に出てお辞儀をした事、潮干狩りで敵機に襲われ、九死に一生を得た事、捕虜の処刑や広島原爆を垣間見た事など貴重な内容ばかりだ。



## ⑭2 Brothers

9分10秒 Worrawut Lakchai (タイ)

タイの教育的メッセージドラマ。些細なことで幼い兄弟に喧嘩は絶えない。父が与えたサッカーボールでも同じだ。怒った父はボールを2つに切ってしまふ。上手く遊べない兄弟は協力して2つを結んで一つのボールにしてみるが。



## ⑮Nikkei Burajirujin

6分44秒 藤井アマング 奈瑠美 成安造形大学 (滋賀県)

日本に住む日系ブラジル人の少女が自分のアイデンティティをめぐる悩みや喜びを語るビデオレター。自分はブラジル人だがブラジルに住んだ頃がない。日本のこともブラジルのこともよく知らない。わが家を舞台に家族による手づくりの芝居を通して彼女の20年の人生を知る。



## ⑯STOP!! ながらスマホ

3分20秒 神奈川県立相模田名高等学校交通安全隊 (神奈川県)

問題提起型ドラマ。交通安全のPRビデオ作品。高校生たちが抱えている身近なモチーフが自然体で織り込まれている。一瞬だがモーショングラフィックを使って編集はドキッとさせる。



## ⑰キミの隣のボクへ - Focus on Myself -

19分35秒 Focus on Myself 慶応義塾大学 (東京都)

フィリピンの子供たちにインスタントカメラを渡し、テーマにそって写真を撮影してもらう。写真を元にインタビューをし、価値観や伝えたいことの課題を考えていこうとするメディアコミュニケーションプロジェクトだ。



## ⑱生きて伝える - 戦災孤児 吉田由美子さん -

19分05秒 鈴木賢士 (東京都)

東京大空襲で両親と妹を失い、戦災孤児となった女性の生き方を探る。彼女は毎年、3.10には墨田区にある東京都慰霊堂を訪れる。家族の遺骨もあると信じているのだ。



## ⑲想いは時空(とき)をこえて

19分58秒 松商学園高等学校放送部 (長野県)

長野県から飛ばした中学の風船が東京出稼ぎ大工の吉田さんの元に届き、中学生たちと吉田さんの文通の心の交流を描く。3.11津波発生後、故郷の高田市に住んでいる吉田さんを訪問。人を信じることの幸せを描く。



## ⑳残された4000枚の絵 ~テレジン強制収容所~

19分24秒 北海道藻岩東高等学校放送部 (北海道)

テレジン捕虜収容所で発見された4000枚の絵。それはナチスドイツに殺された15000人も幼いユダヤの子供たちが残したものでした。札幌で公開された「テレジンの幼い画家たち展」をきっかけに、高校生たちは暗い歴史を紐解いていきます。

